リポビタンカップ「第51回選手権大会」支部予選

九州勢の出場チームが出そろった。中学生の部、福岡県南支部予選は筑後ボーイズが制して全国大会初出場。鹿児島県支部予選で優勝した鹿児島大隅ボーイズも初めての夏切符をつかんだ。北九州支部予選は八幡南ボーイズが実力を発揮し、2年連続4回目の大阪決戦に名乗りを上げた。本戦は中学が8月8～13日、小学が同10～13日に大阪シティ信用金庫スタジアムなどで開かれる。（弓削　大輔）

【中学】北九州支部予選（23日・決勝＝門司球場）

八幡南 連続!!

攻守の柱が欠場 ピンチ乗り越えた

▼1回戦
八幡東　000 220 0
八幡南　054 10X 10　4
（6回コールド）
【東】山崎、田原、井上、山崎―河野【南】小林、安田―一ノ瀬▽本塁打＝河野（東）▽三塁打＝入江、井上（東）吉田翔（南）▽二塁打＝入江（東）田中（南）

▼2回戦
小倉　100 00 0　1
八幡南　205 1X　8
（5回コールド）
【小】伊藤、梅田―大山【南】吉田翔、吉田壮―藤井▽三塁打＝阿部、柿原（南）▽二塁打＝石川（小）森木（南）

▼決勝
八幡　000 000 0　0
八幡南　060 000 X　6
【八】阿部、村上、福田、梅崎【南】吉田翔―藤井▽本塁打＝森木（南）▽二塁打＝久保田（八）阿部、小林（南）

代役海舟が奮起 森木完璧2ラン

攻守の要が不在のピンチを乗り越えた八幡南が3季連続の全国大会予選優勝を飾った。1回戦後の練習中に、正捕手で3番の一ノ瀬颯が左脚をねんざして2回戦から戦線を離脱。打線、守備とも戦力ダウンは否めなかったが、チームの危機を代役の藤井海舟が救った。

藤井はこれまで公式戦のスタメン出場はなし。しかし不安を感じるどころか「やってやろうと思った」と奮起した。決勝は先発左腕・吉田翔の好投を引き出して完封。さらに2回には1死二、三塁から左前に自身初タイムリーとなる先制打を放った。

吉田翔は「海舟は自分で考えてリードしてくれた。投げやすかったし、真っすぐが伸びて空振りが取れた」と9三振を奪った。徳野晴美監督は「2年生にもいい捕手がいるけど吉田翔が藤井を指名した。一ノ瀬の代役としてよく頑張ってくれた」とたたえた。

打線は2回に藤井の先制打に加え、森木悠登の右越え2ランなどで計6得点。準決勝に続いて2本目のアーチを放った森木は「1回戦で打てなかったので1週間で調子を上げていった。芯で完璧に打てた」と振り返った。また1番の阿部堅真が大会を通して打線を引っ張った。

今冬は「例年の何十倍も練習をした」と指揮官。春季全国大会は中止になったものの努力は無駄にならなかった。今予選はチャンスであと一本が出ずにコールド勝ちは4戦中1試合にとどまったが、一ノ瀬が復帰すれば打線はより厚みを増す。厳しい練習を乗り越えてきた自分、そして仲間を信じて全国制覇を目指す。

決勝の2回2死二塁、右越え2ランを放った森木悠登

徳野晴美監督（左）と握手を交わす藤井海舟【下】2年連続の夏切符をつかんだ八幡南ナイン

逆転サヨナラ 連覇へ王手

八幡南　逆転サヨナラ勝ちで連覇へ王手をかけた。2点を追う7回。先頭の1番・阿部堅真が「50メートル6秒台」という俊足を飛ばして遊撃内野安打。これをきっかけに敵失や小林凰雅の右中間適時打で追いつき、最後は吉田翔の中犠飛で決着をつけた。

▼準決勝
北九州中央　000 400 0　4
八幡南　101 000 3X　5
【北】多田野、森田、多田野―大原、工藤【南】小林、吉田壮、安田―藤井、西村▽本塁打＝森木（南）▽二塁打＝池田、多田野、正田（中）森木（南）